



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/419/



エリア

台北市

テーマ

歴史

政治

自然

台北探索館

台北というところ—— 時間と空間への旅

台北探索館は台北市政府庁舎の中にあります。前身は市政資料館で、2002年に博物館に変わってオープンしました。台湾の首都・台北市の歴史、文化、産業、自然環境などについて紹介しています。台湾に馴染みのない訪問者でも、台北の生い立ちとプロフィールを短時間で理解できる博物館です。入り口は一階のイメージホールですが、展示は四階の時空対話ホールから三階の城市探索ホールへという順路。二階は不定期の特別展です。四階の展示では過去から現在に至る人々の暮らしや営み、文化を紹介しています。また発見劇場では、360度の巨大スクリーンで台北のストーリーを上映しています。

学 び の ポ イ ン ト

1.

台北って、どんなところ？ 誰が住んでいたのか？

台北盆地は17世紀までには、オーストロネシア語族のケタガラン(凱達格蘭)族の人々が活動していたところです。彼らは狩猟や漁猟、耕作、物々交換などによって生活を営んでいました。18世紀に入ってから、海を渡ってきた漢民族の開墾により、台北盆地は徐々に農業社会に変わっていきました。19世紀に至っては、中国大陆との米貿易によって「艋舺」、世界経済システムに巻き込まれることによって「大稻埕」、そして、清朝政府の城建設によって「城内」という三つの市街地が次々とできました。「三市街」は台北市の原型ですが、行政区域としての「台北市」ができたのは、日本統治時代以降です。第二次世界大戦後、日本人が引き揚げ、新たに国民政府とともに渡ってきた軍民、台湾各地からの移住者、アジアからの新住民など、それぞれ異なる時期にこの都市で居を構え、多角的な文化を形成しました。

2.

台北の異なるブロックには それぞれどのような特色がありますか？

先史時代から清朝時代、日本統治時代、戦後の権威主義体制を経て現在に至るまで、異なる人々の足跡が台北に残り、異なる時代の痕跡も重なってきました。三階の展示スペースでは、六つの大通りといくつかのブロックを通して、台北の異なるエリアの特色と人々の活動を紹介します。例えば、権威主義体制から民主主義体制への変化を象徴する「ケタガラン大通り」、娯楽気分の溢れる西門町、異国文化の漂う中山北路、詩人や作家が集まり書籍が並ぶ街角。また、MRTの異なる路線に沿ってそれぞれ違うランドスケープが目の前に現れてきます。一方、台北は山に囲まれた盆地であり、淡水河が盆地を流れて海に流れ込みます。台北は、人間の活動だけではなく、自然環境も豊かです。どんなハイキングコースや水上交通があり、どんな特有の動植物が生息しているのかを発見してください。